

△ディレグラ配合錠 [内]

【重要度】★★★ 【一般製剤名】フェキソフェナジン塩酸塩+塩酸プソイドエフェドリン (U) Fexofenadine Hydrochloride+Pseudoephedrine Hydrochloride 【分類】アレルギー性疾患治療剤

【単位】△配合錠 [フェキソフェナジン 30mg+塩酸プソイドエフェドリン 60mg]

【常用量】1回2錠, 1日2回

【用法】1日2回, 空腹時に投与 [鼻閉症状が強い期間のみの最小限の期間に限定して使用する] (原則2週間以内)

【透析患者への投与方法】鼻閉症状の強い時のみの短期使用に留め, 1回1錠, 1日1~2回 [25~50%に減量] (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】鼻閉症状の強い時のみの短期使用に留め, 高度腎障害患者では1回1錠, 1日1~2回 [25~50%に減量] (5)

【その他の報告】塩酸プソイドエフェドリンの排泄は尿 pH が上昇すると低下する (1) 前立腺肥大合併例では特に尿閉のリスク (5)

【特徴】フェキソフェナジンはヒスタミン H1 受容体拮抗剤, 塩酸プソイドエフェドリンは α 受容体を刺激剤 [鼻粘膜の血管平滑筋を収縮させ, 血流を減少させることにより, 鼻粘膜の充血や腫脹を軽減し強い鼻閉改善効果を示す] の合剤。

【主な副作用・毒性】ショック・アナフィラキシー, 肝障害, 痙攣, 血球減少, 中枢神経症状, 消化器症状, 動悸, 味覚異常など。

【安全性に関する情報】重症の高血圧, 重症の冠動脈疾患, 狭隅角緑内障, 尿閉, 交感神経刺激薬による不眠, めまい, 脱力, 振戦, 不整脈等の既往歴のある患者には禁忌 (1) 高齢男性で前立腺肥大合併例には尿閉に注意 (U)

【吸収】フェキソフェナジンの AUC は空腹時投与時で食後投与時の 2.7 倍 (1)

【F】尿中未変化体排泄率から推測すると両薬剤とも低くない (5)

【tmax】徐放錠としてフェキソフェナジン: 1.75hr, プソイドエフェドリン: 5hr (1) プソイドエフェドリン単剤 15~30min (U)

【代謝】フェキソフェナジンはほとんど代謝されない (1) プソイドエフェドリンは 1%以下が肝臓で N-脱メチル化され活性代謝物のノルプソイドエフェドリンに変換 (1)

【排泄】尿中未変化体排泄率: プソイドエフェドリン: 46~96% [24hr まで] (1) 55~96% (U) 消失半減期は尿中 pH が 6 未満で短縮し, 8 を超えると延長する可能性がある (1) 尿中排泄は酸性尿で増加 (U)

【CL/F】フェキソフェナジン: 37.6±12.9L/hr, プソイドエフェドリン: 35.4± 6.3L/hr (1)

【t1/2】フェキソフェナジン: 15hr, プソイドエフェドリン: 6hr [徐放錠] (1)

【蛋白結合率】フェキソフェナジン: 69.4±5.9%, プソイドエフェドリン: 79.4±7.3% (1)

【Vss β 】フェキソフェナジン: 1,020±713L/man, プソイドエフェドリン: 323±79.2L (1)

【MW】フェキソフェナジン 538.12, 塩酸プソイドエフェドリン 201.69

【透析性】塩酸プソイドエフェドリンの透析性は不明 (1) テルフェナジン投与時のフェキソフェナジンの HD クリアランスは約 20mL/min (1)

【O/W 係数】フェキソフェナジン: 2.0 [1-オクタノール水系, pH 7] (1)

【相互作用】EM によるフェキソフェナジンの血中濃度上昇 (1) 水酸化アルミニウム・水酸化マグネシウム含有製剤併用によりフェキソフェナジンの吸収率低下 (1) MAO-B 阻害剤のセレギリン併用で, MAO-B 選択性が低下して, 交感神経刺激作用が増強し急激な血圧上昇のおそれ (1)

【備考】徐放層を含む錠剤のため粉砕不可, かまずに服用 (1)

【更新日】20250512

※正確な情報を掲載するように努力していますが, その正確性, 完全性, 適切性についていかなる責任も負わず, いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし, それらを利用した結果,

直接または間接的に生じた一切の問題について, 当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は, 日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。